

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0842
施設名	さくら上宮保育園
施設所在地	渋谷区桜丘町23番21号
法人名	社会福祉法人上宮会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（色水あそび 自然物の観察）

<テーマの設定理由>

自分たちが育てた「あさがお」から色水あそびを行った経験を活かし、他の自然物からも色水を作ることに興味を抱いている様子がみられた。今回は、色水をつくるために道具を使い、色の変化や自然物への興味や関心を深め、子どもたち自身が試したり、挑戦したりする活動を進めたい。

2. 活動スケジュール

7月～9月ごろ すくわく活動導入準備。担当者と活動内容検討、立案。

10月～3月実施

- ・ 5歳児クラスの子どもたちが「あさがお」を使って、色水あそびを行っていく。
作った色水を形に残して、色の違い等を観察する。
- ・ 園庭にある「あさがお」以外の身近な自然物から色水を作ってみる。素材を探す中で、自然物の観察をする。
- ・ 自然物の観察活動を楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 色水を作る道具（すり鉢）、コーヒーフィルター、障子紙、花がみ、虫眼鏡、聴診器
- ・ 園庭の自然物を使用する（色水あそびをしたいと心が動いた時に、すぐに実践できるよう身近な物を用いた）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・道具を使って「あさがお」から色水をつくった。その色水を形に残す為、障子紙やコーヒーフィルター、花がみを染めてみた。素材によって、染まり方や色の違いに気づいた。
- ・「あさがお」以外の身近な自然物から色水を作った。
- ・自然物の観察をした。（虫眼鏡、聴診器を使ってより詳しく観察した）
- ・活動を振り返って、一人の気づきをみんなの発見にした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・初めて使うすり鉢に「なんでもつぶせる道具」と喜び、「色が出ない時は、線のとおり（溝）にこすればいい」と自分たちで使い方を工夫していた。
- ・「この色水どうする？」との質問が子ども達からでたので、保育者が「どうしたい？」と問いかけると、「持って帰りたい」「袋に入れるとこぼれちゃうからダメだ」と悩み「ダンボールに塗る」との提案が上がった。「紙に染めてみるのはどうか？」と保育者が提案すると、以前行ったTシャツ染めの経験から「それがいい」と意見がまとまった。3種類の紙の染まり方の違いを観察した。
- ・園庭にある自然物（葉、花など）から色水を作った。探す時に、「薄い方がよく色がでるのかな」「表と裏と色が違うのはどうだろう」などと、子ども同士で会話が弾んでいた。
- ・素材になる自然物を探す中で、対象物をじっくり観察する姿があった。保育者が虫眼鏡を渡すと、「線がみえる」と新たな発見があり、他の物も意欲的に観察していき、個々に発見したことを、子ども同士伝え合っていた。
- ・自然物の観察がより発展することをねらいとして、保育者から聴診器も渡した。聴診器を木や草花にあて、音を探している姿があった。飼育している「カブトムシの幼虫」にもあて、「なんか音が聞こえるような。。。」と素直な感想が聞かれた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・どの活動も子どもたち自身で考えたり、試したりしながらあそぶ中で、「もっとやりたい」と意欲につながっていた。保育者が介入しなくても、子ども同士のやりとりが生まれて、自分なりの発見を楽しむ姿が印象的だった。
- ・自分の気づきをみんなの発見として共有することで、そこからあそびが発展する姿があり、伝え合うことの大切さを改めて感じた。